

『学会開催報告』

第48回日本消化器免疫学会総会

The 48th Japanese Society of Mucosal Immunology

金沢大学大学院医学系研究科形態機能病理学
(病理学第二)

原 田 憲 一

平成23年7月21-22日の両日にかけて、第48回日本消化器免疫学会総会が金沢エクセルホテル東急を会場として、形態機能病理学 中沼安二教授の主宰で開催された。本会は、前身の「消化器と免疫研究会」の設立から数えて30余年の歴史を持つ伝統ある学会であり、消化器免疫機構の基礎的研究、消化器疾患の病因・病態解明さらには治療法開発を目指した最新の研究成果・知見を発表し、そして基礎医学と臨床医学各々の立場からの意見交換と交流を通して消化器免疫学のさらなる発展に貢献することを目的としています。特に、近年、粘膜免疫の制御および肝胆膵での免疫病理での新展開など、消化器免疫をとりまく急速な展開がみられており、本総会ではシンポジウムとして、1) 炎症性腸疾患の免疫病態－Bench & Bedside－、2) 消化器疾患の免疫療法、3) IgG4組織反応と肝胆膵疾患、を企画し、いずれも最新の知見を紹介しながら専門医相互の活発な意見交換がなされた。またNIHのBrian Kelsall先生に特別講演「Progress in understanding the definition and function of mononuclear phagocytes in the intestine」、東京慈恵会医科大学消化器内科の銭谷幹男先生に教育講演「自己免疫性肝炎とオーバーラップ症候群：最近の展開」、愛媛大学先端病態制御内科学の恩地森一先生に教育講演「樹状細胞との出会いから免疫治療と栄養免疫まで」を拝聴することができ、大変好評な講演であった。さらに、消化管、肝胆膵の一般演題では、コメンテーターとして各分野の専門の先生方からの貴重かつ先鋭的なご意見を頂き、基礎免疫学、肝・胆・膵・消化管免疫の様々な観点からの活気ある討論、意見交換がなされた。このように消化器免疫学の研究に携わる基礎医学と臨床医学の研究者が金沢で一堂に会し、多岐にわたる消化器免疫のトピックについて国内外の最先端の研究や知見が紹介され、出席者による活発な意見の交換と会員相互の親睦を図ることができた。さらに、田辺三菱製薬、エーザイ、アボットジャパン、中外製薬の共催でランチョン、イブニングセミナーも開催され、またモーニングセミナーでは当教室の出身者で現在ピッツバーグ大学メディカルセンター病理部に所属の一瀬久美子先生による講演を拝聴した。会期中は

台風一過の好天気での開催でしたが、学会前日には悪天候にもかかわらず金沢へお越しいただきました先生方もおられたようです。すべての講演、演題を滞りなく、盛会のうちに終わらせていただきましたこと心より厚くお礼申し上げます。御参加いただきました皆様、また本総会にご支援を頂きました金沢大学十全医学会をはじめ各企業の方々に深く御礼を申し上げます。

